

令和3年度文京区アカデミー推進協議会 第2回分野別分科会（国内・国際交流分野）
概要記録

日時 令和3年6月8日（火）書面開催
委員 山田徹雄委員◎、小能大介委員、関誠委員、内藤雅義委員、佃吉一委員、杉田明治委員、清水恵一委員、彼島巽委員、堀正孝委員、小島えりか委員（◎座長）
幹事 高橋征博アカデミー推進部長、堀越厚志アカデミー推進部観光・都市交流担当課長
資料 資料1 次期アカデミー推進計画の構成（案）
資料2 国内・国際交流分野の定義及び現状と課題
資料3 意見等記入様式

会議内容

- (1) 次期アカデミー推進計画の構成（案）について
- (2) 国内・国際交流分野の定義及び現状と課題について

以下、書面会議のため項目ごとにご意見を列記する。

○項目に対する意見 ●その他の意見

① ICT を活用した非接触型の交流の必要性

ご意見
○「ICT を活用した交流は、テレビ電話のようなオンラインの取り組みに限らず、SNS を活用した取り組みにも…」の表記は、SNS もオンライン媒体であることから「ICT を活用した交流は、オンラインによるテレビ電話に限らず、SNS を活用した取り組みにも…」にしてはいかがでしょうか。
○アカデミー担当委員含め、協定を締結している都市・自治体とのオンラインミーティングの機会を設けてみてはいかがだろうか？我々内部からは見えていない貴重な意見が出てくると思います。
○ICT を活用し、それまで時間や費用などの制約から頻回に行うことが難しかった遠隔地の協定締結都市・自治体との交流をこれまで以上に促進させる。
○コロナ禍の中、ICT の活用は絶好のチャンスと捉え、失敗を恐れず新しい交流の形を模索するチャレンジの機会と捉えてなんでもやってみることが肝要である。最初からベストな交流ツール構築を目指す必要はないと考えます。

② 区民ニーズの把握と興味・関心に応じた取組の充実

ご意見
○区民および区内在住の在学外国人のニーズの把握が重要と賛同します。
○区民のニーズについては昨年度の調査等である程度調査できている一方で、区内在住・在学外国人をターゲットに絞ったニーズの調査が不十分であるように感じる。彼らのニーズを例えば職場や学校を通じて調査するほか、区内在住・在学外国人同士が情報交換できるような場を創出することも重要であると考えます。
○「交流イベントにおける参加者の減少」は、区内在住・在学外国人のニーズとマッチしなくなっている可能性が大であると思われます。その差異を補完するには、当該外国人自ら動いてもらう仕組みが必要であり、例えば「交流分野」の区民応募委員外人枠を設ける、又は分科会にオブザーバーとして参加してもらう等、意見を吸い上げる工夫が必要と考えます。

③ 体験から継続までを見据えた連続性の重視

ご意見
○国際交流分野ではないが、体験イベントとして継続性を持たせ続けているのが、ホームセンター「カインズ」のワークショップ体験。区として継続性を持たせる企画は難しい場合は、区内の民間企業との協力も必要かと思えます。
○区民のニーズについては昨年度の調査等である程度調査できている一方で、区内在住・在学外国人をターゲットに絞ったニーズの調査が不十分であるように感じる。彼らのニーズを例えば職場や学校を通じて調査するほか、区内在住・在学外国人同士が情報交換できるような場を創出することも重要であると考えます。

④ 多分野との連携による事業展開を見据えた交流

ご意見
○6次化は1次産業事業者による2次・3次への取り組みと考えられがちだが、2次・3次産業事業者が国内13自治体で生産を始めることも考えられます。商工事業者への新たなチャンスと考え、他分野・他地域との連携は無限の可能性を秘めている。区からの補助や助成があると事業者としては動きやすいのでこちらは経済課さんとの連携か。
○区民が主体となって、もっと気軽に都市交流に参画できるよう、認知度向上、ICTの活用、民間団体との協力、庁内の関係各課との連携強化などをさらに促進させる。

⑤ 国際交流都市・国内交流自治体の認知度が低い

ご意見
○区民の認知度が低いことへの対策は露出を増やしていくことに尽きる。地道だがポスター掲示やフライヤーの配布などを続けていくことが大切だと考えます。アフターコロナでイベント実施できるようになったらすぐ始められるように、協定自治体との議論は常に続けていくと良いと思います。イベントへの規制・抑制がこれまでに強いので、解禁されるとインバウンドと同様にこれまでにない効果をもたらす可能性もあると考えます。
○都市・自治体交流の認知度向上にも、SNS の活用が有効であると考えます。物産展やフェアの開催時期に併せて、交流先の都市の文化、景観等を SNS で紹介し、認知度を向上させると同時にイベント来場者の増加を狙う。

⑥ 外国人との交流機会の充実

ご意見
○やさしい日本語の充実とともに、文字を大きくして読みやすくする必要も。区内在住の外国人によるオンラインミーティングを実施し、ニーズをくみ取ってみても良いと考えます。交流を求めているのは外国人も同様かと思えます。
○区内在住・在学外国人との交流機会増加の取り組みとともに、外国人同士が気軽に情報交換できるような場の創出についても重要視すべきと考えます。 ●行政文書の多言語化や「やさしい日本語」の活用と併せて、区内在住・在学外国人が行政手続き等で困ったことがあったときに気軽に相談できるような、「やさしい日本語」対応の窓口の開設、または外国人向けの生活支援ボランティアを設置することも必要であると考えます。

⑦ その他

ご意見
○日本国籍以外を保持する、いわゆる「外国人」以外にも、国外にルーツを持つ区内在住・在学者の存在にも目を向け、彼らを交流の場から取り残さない工夫についても念頭に置くべきであると考えます。

以上